



浦和大里小学校だより

2月号 令和8年1月30日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



空 気

校 長 中 野 緑

木々の花芽はまだ固く、キリッと冷えた空気の中で春を待ちわびています。

いつものように、教室を参観するために廊下を歩いていると、教室にいる子どもたちと目が合います。こっそり「バイバイ」と胸の前で小さく手を振ってくれる子どもがいます。わたしもうれしくなって、「バイバイ」と手を振り返します。結局先生も気づいて笑っています。

教室がまとう空気にはいろいろありますが、私が「いいなあ」と思う教室には共通点があります。それは「幸せな空気」が漂う教室です。具体的には、

- ・職員も子どもも表情が柔らかく笑顔が多いこと。
- ・職員も子どももちょうどよい大きさの声で話していること。
- ・職員も子どももポジティブな言葉をたくさん使っていること。

このような教室では子どもが安心して失敗ができるので、積極的に新しいことに挑戦するという好循環が生まれ、活気にあふれてくるようです。

「幸福学」の第一人者である慶応義塾大学大学院教授の前野隆司さんは、調査・分析から、「人が幸せになるために必要な四つの因子」を導き出したそうです。

- ・「やってみよう！」因子（自己実現と成長の因子）
- ・「ありがとう！」因子（つながりと感謝の因子）
- ・「なんとかなる！」因子（前向きと楽観の因子）
- ・「ありのままに！」因子（独立と自分らしさの因子）

これを見たときに家庭教育も、学校教育も、幸せ追究そのものだと私は思いました。

けれども、冷静に子育てを振り返ってみると、「なんとかなる！」因子については、もしかしたら逆の働きかけをしてきたかもしれません。朝慌てて準備をする子どもに「前の日に準備しなさいっていつも言っているでしょう！そうやって、『なんとかなる』と思ったら大間違いだよ。」などと叱った経験を思い出します。「ありのままに！」因子もあやしいものです。

「空気をよんで」他人の行動に合わせることも社会生活を送る上でとても大切な力ですが、それを過度に課してしまいがちだったようにも思います。「ありのままでいいのだよ。」という声かけをどれだけしていただろうか…。

地球は狭くなりました。価値観は多様です。

「うちの子は優しいところがすてき」「うちの子は誰とでも打ち解けられるよさがある」「こつこつ努力できることをわが子ながら尊敬している」と胸を張って言ってほしいです。一つの基準だけで優劣を比べられるのではなく、多様な人が、多様な自分らしさを発揮し、認め合える、「幸せな空気」の中で、毎日を過ごしてほしいと願っています。